

2019年1月7日

株式会社スカパーJSATホールディングス

弊社社長の年頭訓示について

弊社社長、高田真治は、本日の仕事始めにあたりグループ社員全員に対して次のように訓示を行いました。

株式会社スカパーJSATホールディングス 代表取締役社長 高田真治の訓示（要旨）

平成元年、1989年の3月7日に、JCSAT-1号機が打ち上げられ、続いて6月にはスーパーバード-A号機も打ち上げに成功し、当社のサービスがスタートした。平成が終わるにあたって年頭から「新元号」や「消費増税」、そして米ソ首脳による終結宣言以来、久しく使われることのなかった「冷戦」という文字がメディアの見出しに踊っている。この30年間の社会の変化と並行して当社が歩んできた歴史をまとめた初の社史がまもなく刊行されるので、未開の分野に挑んだ先人たちのチャレンジと決断に学んでほしい。

昨年、「Space for your Smile」という新たなグループミッションを策定したが、すでに具現化する成果も出ている。メディア事業における“複数台無料”を売りにした110度スカパー!の「基本プラン」には、すでに約25万件もの契約をいただき、コンタクトセンターに寄せられているお客様の声からも、多くの家庭や、家族それぞれの部屋でたくさんのSmileが生まれていることを実感している。

今年夏には受信環境整備が課題のBSと110度CS左旋放送をFTTHで再送信すべく準備を進めている。これによってNHKのBS8Kを含む左旋チャンネルの視聴可能世帯が一気に拡大できる。“複数台無料”と親和性の高いFTTHサービスであり、光コラボ事業者はじめ各方面と連携し、競争力を最大限訴求して加入基盤強化につなげたい。

今年「攻め込む」年だ。

宇宙事業においては、本年秋以降JCSAT-17、18の2機の静止衛星を打ち上げる。いずれも2020年以降の新たな収益基盤になる重要な衛星であり、打ち上げを成功し運用を開始したい。

一方、これからも静止軌道衛星ビジネスは中核・基盤事業であるものの、すでにあるインフラとサービスだけでは成長できない。あらゆる空間（Space）を開拓して、スペースインテリジェンスビジネスを拡充していくことを着実に進めていきたい。まだまだ未開拓のビジネスフィールドであり、当社にないリソースをもった多様なパートナーとの協業になる。新事業のパートナーは大小さまざまなグローバル企業であり、案件ひとつひとつの実現性や事業性を精査する中で、当社の体力、リスクを勘案しつつメリハリある取捨選択をしていく必要がある。

以上